

校長通信 (教職員版) 第54号 2018. 10. 11

学びみらいPASS 活用事例報告会

【1】はじめに

10月6日(土) 14:30~17:00に中津にある河合塾医進館で「学びみらいPASS 活用事例報告会」が開催されましたので、自分の勉強のために行ってきました。この校長通信も、自分の学びを文字化(外化)することで、より理解を促進するために書いていますので、「校長通信で書かれているこんな実践をしななければならないのか・・・」とプレッシャーを感じる必要は一切ありません。参考程度に読んでください。

報告を行っていたのは、兵庫県立加古川東高校と大阪の香理又ヴェール学院高等学校です。

【2】加古川東高校の実践

(1) 加古川東高校の紹介

	現役生	既卒生	合計
東京大学	4		4
京都大学	17	3	20
大阪大学	19	7	26
北海道大学	1	1	2
名古屋大学	2	2	4
九州大学	5	2	7
神戸大学	24	7	31
国公立大学計	228	58	296

最初に基礎知識として加古川東高校の紹介をしておきます。創立94年の伝統校で、東播磨地域の公立トップ高です。理数科1クラス、普通科8クラスの編成でSSH指定校3期を迎えます。この春の進学実績は、左の表の通り。

実績をみて分かるように、大阪府立高校のGLHS、それもトップ5に相当する実績を挙げている進学校です。SSHの生徒研究発表会でもH28年度にはJST理事長賞(全国2位に相当)、H29年度には文部科学大臣賞(全国1位に相当)を受賞しています。因みに、H28年度の実績研究は「小翼を応用した新しい風車のデザイン」、H29年度の実績研究は「微小重力下での濡れ性を利用した管内流の制御」です。テーマだけ見ても何のことか、私にはさっぱりわかりません。

(2) 学びみらいPASS 導入の経過

加古川東高校が、学びみらいPASSを導入するに至った経緯を紹介しましょう。そうそう、紹介が遅れました。この加古川東高校の報告をしてくれた先生は、新 友一郎先生です。教師歴10年、加古川東高校5年目です。教科は地歴公民科で2年理数科担任、学年進路指導担当、学年探究学習担当です。

話を元に戻します。学び未来PASS導入の経緯です。加古川東高校では3年前の2015年に大学入試改革への対策を開始し、将来構想委員会を立ち上げています。委員には、常任7人とその他の教員も随時参加し議論を重ねてきました。この過程で、この前研修で呼び出した関西大学の森朋子先生が深く関わっておられます。研修はもちろんのこと、授業改善のために何回も加古川東高校を訪問されているようです。〇〇高校での研修のために関西大学の生協で私と打ち合わせをした時も、森先生は加古川東高校の取組を話されていました。それ以外にも福山市立大学の藤原顕先生、溝上慎一先生にも関わっていただいているということです。今では、ほぼ全員がAL型授業を取り入れているという報告がありました。

さらに、理数科だけが探究学習を行うのではなく、普通科の全生徒も「探究学習」に取り組むように学校を改革したということです。課題を発見し、仮説を立てて検証し、その結果を発表するという一連の流れを全生徒が高校在学中に経験するようにしたと報告されました。その中で「学力の3要素」を測定するツールの必要が浮上したというのが、学びみらいPASS導入の経緯です。他者との比較でこの学びみらいPASSに決めたのは、「カリキュラムマネジメントに利用できること」と『10年トランジション調査』の成果を活用できること』の2点が決め手らしいです。

(3) 加古川東高校での活用事例

それでは、加古川東高校での活用事例を何点か紹介します。

①加古川東高校が注目した生徒

加古川東高校でも、本校と同じように診断結果をプロの講師から生徒に説明されました。その上で、加古川東高校では、次のような生徒に注目をしました。

教科学力・リテラシーが高く伸び代があるが、部活やクラスの友人関係の充実に満足している。早めに主体的な学習の大切さも意識させたい生徒

教科学力・リテラシーが高く伸び代があるが、キャリア意識が低く目標が定まっていない。進路目標をともに考えてはっきりさせると、より伸びる可能性がある生徒

この注目には、諸手をあげて賛成です。本校の学び未来 PASS の結果でも注目したのは、上の2点です。左の生徒は、「現状満足派」と名前をつけ、右の生徒には「キャリア教育が必要」と校長通信で報告したと思います。本校と加古川東高校の違いは、「教科学力・リテラシーが高く・・・」という点です。本校は、高くありません。特に教科学力は高くない。その上「現状満足派」「将来考えない派」では伸びる要素が大きく欠けてしまいます。ここが本校の最大の弱点です。ですが、今回、加古川東高校の報告を聞いて思ったことは、「レベルの差こそあれ、どこも問題点は同じ」ということです。新先生は、このような生徒を次のように表現します。

「一見問題がないように見えるので、指導が後回しになりがちな生徒だが、3年時に勉強を始めても志望校に届かないことが多い」

こんな生徒は、本校ではわんさかいます。特に1年・2年で部活を一生懸命やっている生徒に多いと思いませんか？部活をやっている時には、それほど問題はありません。日々の部活動に満足しているので、現状に満足し日々の生活を変えようともしないし、中々将来を考えようともしません。いざ、3年の受験勉強を始めると、中々エンジンが掛からず、結局志望校に届かないというケースです。

このような生徒達に注目することで、具体的に加古川東高校では、次のような活用をしていました。

②進路指導「特色・推薦入試向き生徒」分析

「教科学力△リテラシー○コンピテンシー○」の生徒の中から、LEADSの資料とクロスさせて、推薦入試に向いている生徒とそうでない生徒の判断材料に活用しています。LEADSというのは、志向性を測るツールです。このLEADSのデータの中で、

- i) 他の人と議論することができる
- ii) 自分の言葉で文章を書くことができる
- iii) 人前で発表することができる

の項目に注目し、得点の高い生徒をリストアップすることで、特色・推薦入試に向いている生徒への指導に役立てようとしています。新先生曰く、「2021年は国公立大の30%が推薦入試になるので、これに向けて役立てることができる」と言っていました。その通りです。

③7月の面談資料に役立てる

	相談できる友達がいない	相談できる友達が少ない
自尊感情が普通・高		
自尊感情が低	この箇所に該当する生徒に注目して面談に役立てる	

加古川東高校では7月面談を実施しています。1年生で人間関係に悩んでいる可能性のある生徒のチェックに役立てています。LEADSの友人関係と志向性をクロスして分類をしています。LEADSの「相談ができる友だちがいる」の数値が低い生徒と自尊感情の志向性の

- i) 自分に満足している
 - ii) 自分には見所がある
 - iii) 大抵の人と同じことができる
 - iv) 得意に思うことがない
 - v) 自分を尊敬できたらと思う
 - vi) 自分自身に前向きである、
- をクロスさせ、左のような表を作成しています。

④冬休みの面談マニュアルを作成

さらに、学びみらいPASSの結果を生徒はすぐに忘れてしまう、それに事後指導用のワークシートをする余裕がないということで、冬休みの三者面談での活用を行って

いと報告がありました。リテラシー、コンピテンシーなどが著しく高い/低い生徒をピックアップする資料を作成し（次の図参照）、さらに河合塾が用意したマニュアルは熟読する分量が多いので、最低限伝えてもらいたい内容を、「本校で必要なものは何か？」をもとに作成し、加古川東高校独自の面談マニュアルを作成したと報告がありました。これは中々役立つのではないかと思います。ここで、資料を紹介する前に少しコメントしておきます。もう、お気付きだと思いますが、加古川東高校では、7月に面談、冬休みに面談をしているそうです。2学期制なので、この時期が面談に適しているということのようです。ある意味、この時期の面談は、じっくり時間が取れて良いかもしれません。

それでは、資料の紹介です。まずは面談資料。

	教科	リテ	コンピ	リテ総合	コンピ総合	志向性	友人関係	自尊感情	キャリア意識	興味関心
①伸び代いっぱい！まだまだこれからタイプ	△	△	△							
生徒1	0	0	0	3	2	単独傾向	2	1	1	3
②部活動に命をかける！お祭り大好きタイプ	△	△	○							
生徒2	0	0	1	3	3	交友充実	3	2	1	3
生徒3	0	0	1	3	4	勤勉	1	2	1	3
生徒4	0	0	1	3	3	交友充実	3	1	2	3
生徒5	0	0	1	3	3	進学準備中	2	2	2	1
生徒6	0	0	1	1	4	勤勉	2	1	2	3
③こだわり没頭タイプ	△	○	△							
生徒7	0	1	0	6	1	単独傾向	1	1	2	2
④部活動のキャプテンタイプ	△	○	○							
生徒8	0	1	1	5	3	交友充実	3	1	2	1
生徒9	0	1	1	5	3	交友充実	3	3	1	1

次に面談マニュアルです。

⑤学○リ△コ△・・・「暗記大好き・作業系タイプ」

- ・正解があるものは得意だが、応用や融通が利かないことも
- ・定期テストのための詰め込み型の勉強から、もっと視野を広げた勉強につなげるよう助言
- ・生徒用資料の結果から教科学力以外の良いところを取り上げて、思い当たる場面を尋ねる

⑥学○リ△コ○・・・「素直な優等生タイプ」

- ・先生や保護者のアドバイスに素直に従う優等生だが、指示待ちになりがちな側面もある。
- ・リーダーシップを高めるためにも、自分で状況判断したり、考える経験を意識させたい。
- ・周りのサポートだけでなく、探究学習などで自分で状況判断したり、考える経験をしてみて欲しいことを説明。

⑦学○リ○コ△・・・「探究・スペシャリストタイプ」

- ・成績も考える力もあるが、こだわりが強く一風変わった存在で、就職活動や入社してから苦勞する可能性。
- ・納得感を持たせることが重要なタイプで、生徒が納得するまでじっくり話すことが大切。
- ・生徒会、クラス委員などを勤めて、周りに目を向け新たな発見をさせることを促す。

⑧学○リ○コ○・・・「夢に向かって邁進、キラキラ優等生タイプ」

- ・特に手の掛からない優秀な生徒のため、指導が後回しになりがち。
- ・興味関心が固まっていることも多いが、それゆえに将来夢破れた時に適応できなくなる恐れも。
- ・興味関心を広げるためにも、新しい体験を促し、チャレンジした結果の適度な失敗体験も大切。
- ・来年度の課題研究を主導する姿勢をとれば、リテラシー、コンピテンシーを伸ばす新たなチャレンジになる。

※特に本校に多い⑥～⑧タイプの生徒を後回しにせず、より高いレベルに導くことを目標とする。

以上が加古川東高校独自の面談マニュアルの一部です。このような取組で得られた成果として、新先生は次のような点を挙げていました。

(4) 加古川東高校で得られた成果

①経験則を裏付ける数値データが得られた

加古川東高校の先生にとっては、「おそらく、こんな感じの生徒で、こんな指導が必要ではないか」というポヤーっとした経験則に対して、それを裏付けるデータを得られたと言います。だから、生徒への説明も説得力が増したらしいです。例えば、こんな例を挙げていました。

例) 能力は高いがコツコツ学習できない生徒に対して

これまでの指導

「あなたはやればもっとできるはずなんやけど、まだ結果がでていないよね。日々の授業にしっかり取り組みば、もっと力が伸びるはずやよ。頑張ろうね」
 「(生徒) はい。頑張ります。」

新先生曰く、「生徒は、『がんばります』というが、このあと、本当にかんばるかどうか、確信が得られないことが多かった。生徒に迫りきれているとは思えなかった」と言っていました。確かにそうです。その場では良い返事をするが、行動に移さない生徒は結構多いです。このような指導が、学びみらいPASSの活用で、少し変わったと新先生は言います。

学びみらいPASSを利用した指導

「この結果を見ると、リテラシー総合は5だからあなたはとても能力が高いよ。でも、コンピテンシーの行動持続力が2で、実践力が1と低いのはもったいないよね。個々を意識して伸ばせばもっと学力が伸びるはず。例えば、クラスの役員に立候補するとか新しいことにチャレンジして頑張ってみてはどうか？」
 「(生徒) 確かにそうですね。ちょっと考えてみます」

②保護者の満足度、信頼度が高まった

保護者は、大学入試改革の中で「学力の3要素」について、とくに「思考力・判断力・表現力」や「主体性・多様性・協働性」に不安を覚えていると、新先生は言います。つまり、自分の子どもの「見えにくい学力」に対して不安を覚えているわけです。このような保護者に生徒の学びみらいPASSの結果を提示すると、保護者はほぼ同意すると言います。その上で、前掲した面談マニュアルを元に、どうすれば足りない部分を学校生活の中で伸ばせるかが説明しやすくなったと言います。

以上のように加古川東高校では、学びみらいPASSを活用していますが、新先生が声を大にして言いたいのは、

「学びみらいPASS」を実施すれば、生徒のリテラシーやコンピテンシーが上がるわけではない！

このツールをどのように学校全体の教育活動の中で活用するかが重要！

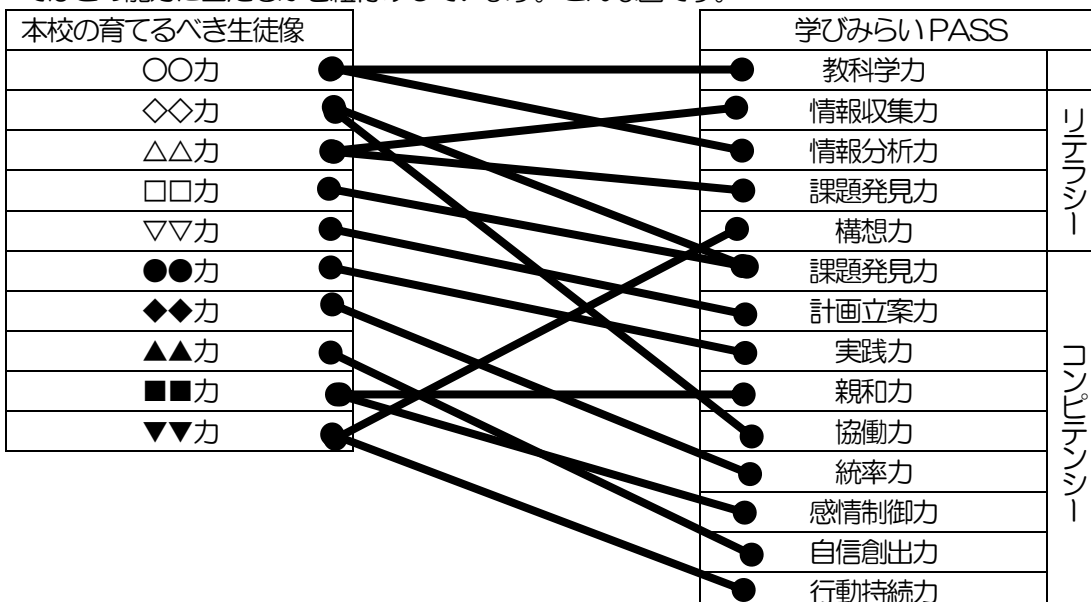
ということです。当たり前ですよ。データは、利用するためにあるものです。また、データは、活かす能力がある者が活用してこそ活きます。利用価値のわからない者にとっては、何の意味もありません。

このような発想で、加古川東高校で今取り組んでいるのが、次の2点です。

(5) 学びみらいPASSの今後の活用の方向性

①カリキュラムマネジメントとの紐付け

加古川東高校でも次期学習指導要領の改訂に向けて作業が始まっています。加古川東高校では、カリキュラムマネジメントの王道を行っているようです。まずは、加古川東高校で育てるべき生徒像を作成し、その能力が学びみらいPASSではどの能力に当たるかを紐付けしています。こんな図です。



これは、現在作成中ということで、来年度から運用予定ということです。

さらに、このめざすべき生徒像をどのような場面で身につけさせることができるかの「カリキュラムマップ」を作成しているという事です。この「カリキュラムマップ」を教職員全員が情報共有することで、「この授業や行事で生徒が伸ばすべき能力」を目的意識的に身につけさせることができるといいます。また、この「カリキュラムマップ」は、生徒にも共有する予定なので、生徒も「自分の伸ばすべき能力」を意識しながら、PDCA サイクルを生徒自身が回していくことになる、新先生は言っていました。このカリキュラムマップとは、次のような表です。

(例)	教科学力	情報収集力	情報分析力	課題発見力	構想力	計画立案力	実践力	・・・
体育祭					○			
文化部発表会						○	○	
探究①(情報収集)		◎					○	
探究②(情報分析)	○		◎					
課題研究中間発表会					○			
SSH 講演会				○				
進路講演会					○			
部活動					○			
⋮								

②ポートフォリオの活用
 カリキュラムマネジメントで規定した能力に基づき、生徒が意識して取り組んだ活動には、「できたこと/できなかったこと」があるはずだと、新先生は言います。そのことを加古川東高校では、Japan e-portfolio に準拠した紙ベースのポートフォリオに蓄積しているということでした。つまり、

- ・できたことで得られた成果は何か？
- ・できなかった原因を考えて導き出される改善案は？

を考えさせ、メタ認知を促進すると報告がありました。

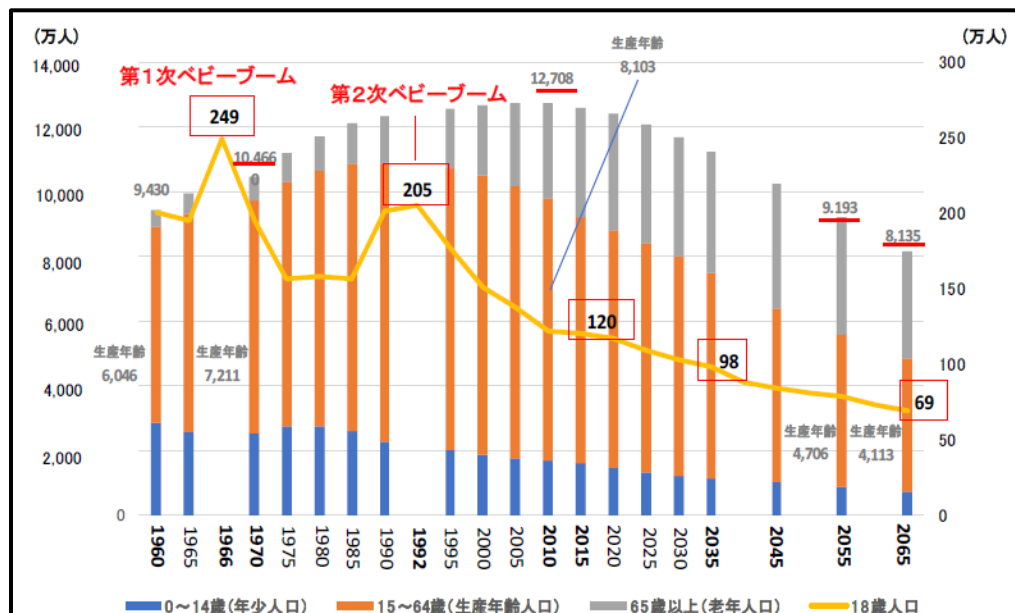
この左のような表を作成している高校は、「全国の活用事例」の中では、青森県立青森高校でも行っています。また、兵庫県立御影高校では、毎週金曜日の朝に「活動ポートフォリオ」記入の時間を設定し、校内外の様々な活動について、それを通して身についた力や今後の課題などの気づきを記入するという

実践をしています。

以上が、加古川東高校の実践報告でした。報告を聞いての感想は、何よりも報告をしているのが、わずか10年の教職歴の、若手からミドルリーダーになる転換点の新先生であるということです。こういう教師が、学校にいると学校の改革もおそらく一挙に進んでいくのであろうと思います。私がこの「学びみらいPASS」を活用して、「できるであろう・・・」と想像していたことのほとんどをやっていると思いました。

【3】溝上先生のコメント

今までこの校長通信に何回も登場した京都大学教授の溝上先生ですが、とうとう、京都大学を退職され、学校法人桐蔭学園理事長代理、桐蔭学園トランジションセンター所長に就任されました。今回の学びみらいPASSの報告会でのコメントも、その時間の2/3は、「なぜ、私は京都大学を辞めたか？そして桐蔭学園に移ったか？」ということでした。傍からみていると、京都大学の教授という肩書きは、「すごいな・・・」と思うのですが、50歳を前にして、人生100年時代をどう生きるかということを考えた時に、溝上



先生の強烈な思いは、「**京都大学の教授なんて、やっている場合ではない!**」ということでした。

彼の強烈な危機意識は、上のグラフにあります。急激に人口減少が起こる日本なのです。とにかく、2010年に8103万人いた生産年齢人口が、2055年には4706万人、2065年には4113万人にほぼ半減するのです。2055年まで、あと37年、今の高校3年生が55歳です。つまり、今の高校生（大学生も含め）は、日本の生産年齢人口が半減していく過程を人生の中で経験していくことになります。

この間、一体何が起こるか？

そんなことは誰も予測できない!

と、溝上先生は力説します。VUCA という何が起こるか予測不可能である時代からこそ、学力だけではなくリテラシーやコンピテンシーが必要だということです。

彼は、工場の見学に行った時に、社長にあることを頼むと言います。「社長が一番良いと思う社員と一番ダメだと思う社員を見せてくれ」と。そのことをある中小企業の製菓会社を例に紹介してくれました。

◎一番良い社員

20代後半地方の国公立大卒の女性。とにかく明るい。パートのおばさんたちと一緒に仲良く仕事ができる。いつも効率よく仕事することを心がけているので、彼女の工夫で4人の持ち場が3人で仕事ができるようになった。

×一番ダメな社員

40代男性。技能は申し分ない。ところが、他人との折り合いがダメで、社長は何とかしようとベアを組ませたり、主任にしたりと工夫をしたが、「相手にやる気をなくさせるのがこれほどうまい人はいない」というほど、コミュニケーションが下手。現在は、一人で機械を相手に仕事をしている。

このように会社で働く姿を見ると、「社会とのトランジション」というものを、高校も大学もずっと意識をしなければならぬと彼は訴えます。

「京大には、地頭の良い学生なんて、わんさかいる。だけど、社会で通用しない学生も少なくない数があるのです。先生達は、京大に何人入れたということを成果のように宣伝するが、それなら◎◎高校という名前を捨てて、◎◎予備校と名前を変えればいい。そういう学校の経営も大事だろうけど、そんなことより、卒業させた生徒が、その後どうなったかを、もっと見てくださいよ。自分達が育てた生徒が、社会でどんな風になっているか、そっちの方がよっぽど大事だ。私は、高校も大学も卒業生調査を実施すべきだと思っています!」

最近溝上先生は、「大学生白書2018」を刊行しました。私も買いましたが、まだ読んでいません。学術書ですから、読みこむのに時間がかかります。この本は、10年間に亘って、彼が大学生の調査を行ってきた集大成です。その結果、「**大学生は、育てていない、むしろ悪化している**」というのが彼の結論です。この本にはサブタイトルがついていて、「**今の大学教育では学生は変わらない**」というものです。この本の出版に際して、彼は日本記者クラブで会見を行っています。You Tubeで見ることができるので、興味があれば見てください。

これからの人生の後半を、彼は、日本の教育を何とかするために、「本気で人生をかけてやろうと思う」と言っていました。だから、

「京都大学の教授なんて、やっている場合ではない!」

と彼は決断したのだということがヒシヒシと伝わってくる彼のコメントでした。

【4】最後に

こういうように色々な報告会やセミナーで学んだことを文字にすると、自分が何を聞いてきたのか、何に重点を置いているのか、そして何を考えているのかが、よく分かります。まさに、この通信は「メタ認知を進めるポートフォリオ」ではないかと、最近思うようになりました。自分のためにかなりいい勉強になっています。

ところで、10月12日に大阪大学高等教育入試開発センター主催の「思考力の育成と評価～論述試験フランスの大学入試“ハカロレア試験”の事例から考える～」に指定討論者として出席することになりました。以前校長通信にも報告した立命館大学の細尾先生からの依頼です。10分ほど話すだけで、〇〇高校とは全然関係のない話をする予定ですが、一応「大阪府立〇〇高校校長」の肩書きで登壇するので、お知らせしておきます。